

# 下水道部の広報活動について

吹田市 下水道部 経営室

伊丹 一利

## 本日の内容

1. 下水道部の業務内容
2. 主な広報活動紹介(経営室)
3. 主な広報活動紹介(水再生室)

---

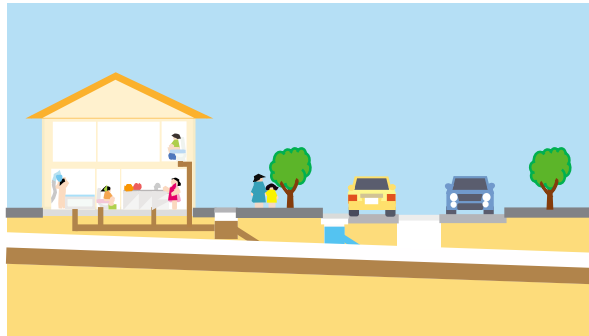
# 下水道部の業務内容

---

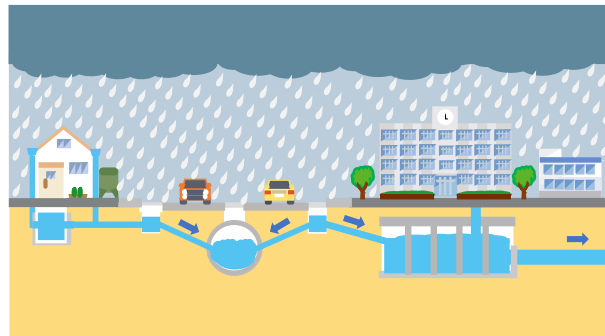
## ● 下水道の役割について

- ・下水道は、生活環境の改善、公衆衛生の向上、浸水防除、公共用水域の水質保全を図るために役割を担っている。
- ・日常生活を行う上で、欠かすことのできない重要な施設。

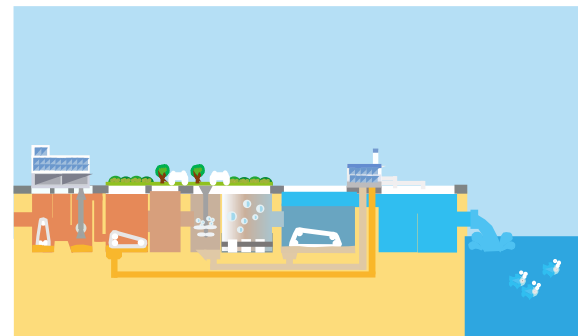
○生活環境の改善



○浸水防除



○公共用水域の水質保全

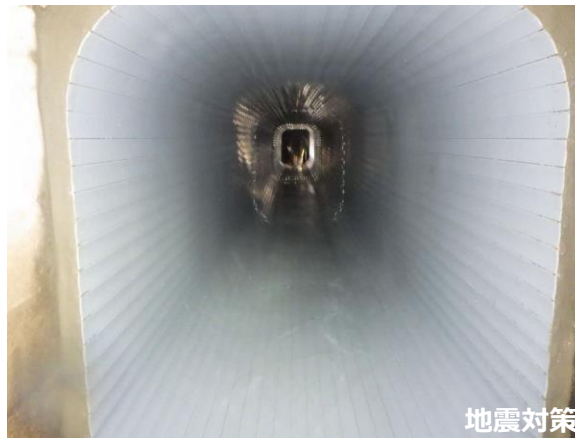


## ● 吹田市下水道の現状について

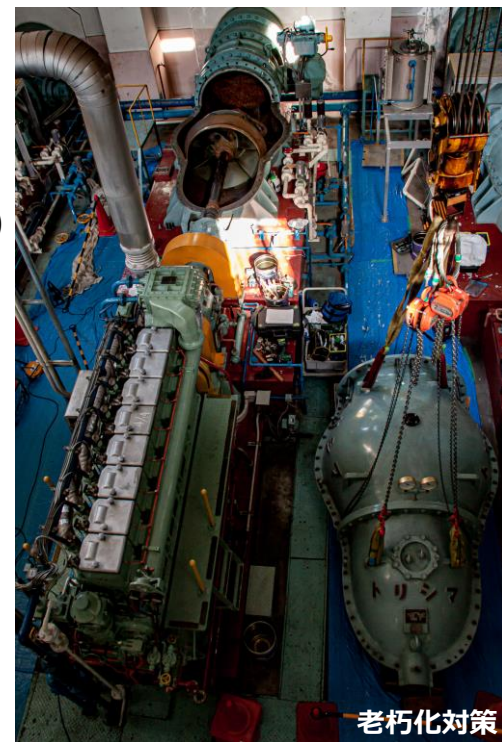
- ・昭和34年度（1959年度）市南部地域の浸水対策事業として下水道事業に着手。
- ・吹田市全市域（約3,582ha）を対象区域とし、現在の汚水人口普及率は、99.9%、雨水整備率は、約54%。
- ・古くに整備した下水道施設が老朽化している。**(施設の約40%が耐用年数を超過する)**
- ・老朽化対策だけでなく、浸水対策、地震対策など様々な対策を実施している。



浸水対策



地震対策



老朽化対策

## ●下水道の「見える化」について

- ・下水道施設の多くは地下に埋設され、見えにくく意識されにくい存在。
- ・持続可能な下水道事業は、下水道が担う役割や課題、魅力などを積極的に発信し、市民の皆様に関心を持ってもらい、理解を得ながら事業に努めることが重要。
- ・積極的な“見える化”に努めている。

○マンホールカード



○掘削現場の見学



- ◆ マンホールカードの配布
- ◆ デザインマンホール蓋の製作
- ◆ イベントの企画・開催
- ・下水道施設（工事現場、下水処理場）の見学会
- ・下水汚泥を有効利用した有機肥料の配布
- ・下水道PRチラシやマンホール蓋柄マグネットの配布

## ●下水道の「見える化」戦略案について

- ・広報活動を推進することで、下水道工事がしやすい環境、苦情の軽減など**円滑な日常業務体制の構築**や**将来の料金改定の合意形成への備え、担い手確保**などに繋がる。
- ・「吹田市下水道事業経営戦略2019」を踏まえ、広報活動を推進し、**円滑な下水道事業運営体制の構築**を目指す。

### ○進捗位置(令和5年時点)

#### 広報啓発体制の構築時期

デザインマンホール蓋プロジェクト  
コラボ蓋設置、マンホールカード配布

情報発信、出前授業、イベントへの参加、見学会の充実など

職員の意識改革・職場体制の構築

1rd  
STEP

#### キーパーソン発掘時期

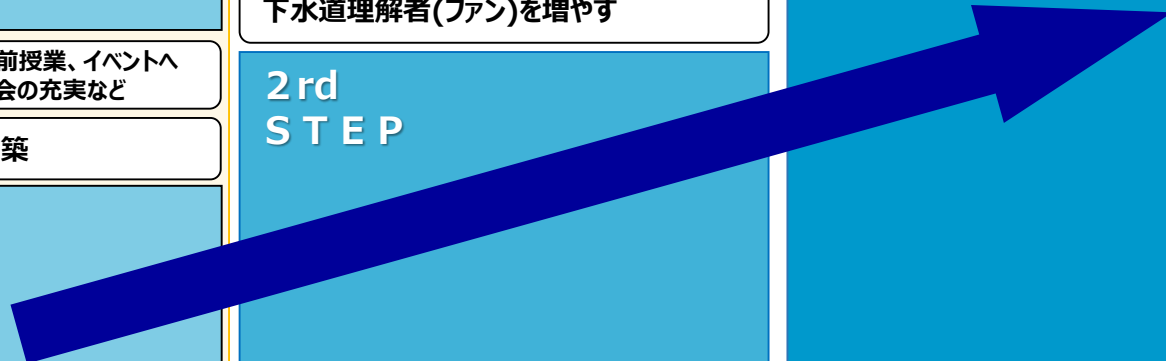
地域（連合自治会等）への出前講座

下水道理解者(ファン)を増やす

2rd  
STEP

3rd  
STEP

下水道広報  
体制の構築



---

# 主な広報活動(経営室)

---

## ●デザインマンホールプロジェクト

- ・マンホール蓋のデザイン性が話題であること、「マンホールカード」収集が流行していることに着目し、新たなデザインのマンホール蓋を作ることで、話題性や一定の集客も見込めると考え、平成29年度より下水道事業が地方公営企業へ移行を契機とし、本プロジェクトを発足。
- ・下水道のイメージアップ、下水道への理解力向上、デザイン、モチーフに吹田のシンボルを使い、本市が持つ魅力を再発掘。
- ・プロジェクトメンバーは、下水道のイメージを向上させたい下水道部の職員とシティプロモーション推進室職員で構成。
- ・吹田市イメージキャラクター「すいたん」を含むデザインで制作、職員自ら、撮影、デザインを作成。

### ガンバ大阪バージョン

- ・平成29年7月にパートナーシップ協定を締結したガンバ大阪とのバージョン・
- ・吹田市のマンホールカードにもこのマンホール蓋を採用。



### 自然シリーズ

- ・“自然豊かな街吹田”をイメージしたシリーズ。
- ・紅葉のシーズン以外でも赤い紅葉の風景を思い浮かべられるようにデザイン。



### 鉄道シリーズ

- 交通の要衝として発展した“鉄道の街吹田”をイメージしたシリーズ。
- ・鉄道会社とのマンホール蓋コラボは、近隣都市ではまだあまり行われていない珍しい取組。



## ●デジタルスタンプラリーの開催

- ・鉄道蓋シリーズの完成(全16駅の設置)を記念して、令和5年3月スタンプラリーを開催。
- ・スタンプラリー参加者には、参加賞、全駅のスタンプラリー達成者には、抽選でコンプリート賞を配布。
- ・吹田市作成のグッズだけでなく、鉄道各社より、ノベルティの協力があつた。



### ○鉄道会社提供品(JR貨物)



## 市内の鉄道蓋を巡ってノベルティをGET! デジタルスタンプラリー

主催：吹田市下水道部 協賛：大阪高速電気軌道株式会社・大阪モノレール株式会社・北大阪急行電鉄株式会社・西日本新幹線株式会社・日本貨物鉄道株式会社・阪急電鉄株式会社 (50 種類)



### ○市報すいた掲載(令和5年3月号)



下水道部デザインマンホール蓋プロジェクトチームPresents  
市内16駅すべてに設置  
鉄道デザインのマンホール蓋(鉄道蓋)

市では、平成29年(2017年)に下水道(防犯化)を目的にプロジェクトチームを立ち上げ、マンホール蓋のデザインに着目。以来、職員の発案から撮影まで行い、鉄道、自然、キャラクターなどをテーマに18種類のオリジナルマンホール蓋を設置してきました。今回は、市内16駅とコラボした鉄道蓋。昨年、全駅に設置が完了したことを記念し、以下のとおりスタンプラリーを開催します。この機会に足を運んでみてください。設置場所は市ホームページへ。  
下水道部経営室(06384・208)06368・9903)

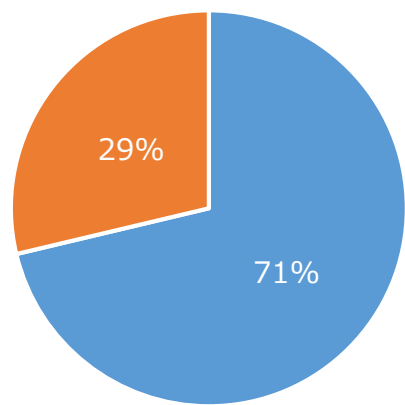
### 鉄道蓋のココロに注目

- 1 おすすめさん (1) 16駅の鉄道蓋すべてに、すいたさんが登場。どこに隠れているか探してみてください。すいたさんは目立つので、撮影が大変でした。
- 2 参加賞はすいたさん (2) 鉄道各社の担当者に撮影写真や車内の希望を共有。採用写真も双方で協議のうえ決定しました。各社のみなさんの協力のおかげです。
- 3 撮影もデザインも自由 (3) 撮影場所のロケハンから当日の撮影、写真の補正やデザイン制作まで下水道部の専任が担当。撮影は天候や光線に、写真の補正・デザイン制作では色調にもこだわりました。

### 鉄道市内全駅設置完了記念 3/1水~26日開催 市内鉄道蓋デジタルスタンプラリー

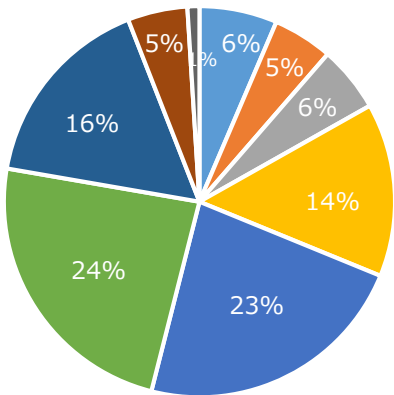
- 期間 3月1日(水)~26日(日) ※最終日は午後8時まで  
参加方法 STEP1 スマートフォンで「SpotTour」アプリをダウンロード。  
STEP2 アプリ名「市内鉄道蓋デジタルスタンプラリー」か、ツアーコード「59542」で検索し、「参加する」を押す。  
STEP3 スタンプスポットである、市内16駅のマンホール蓋へ行き、「SpotTour」アプリを起動。スタンプを獲得する。  
STEP4 集めたスタンプの数に応じて、以下のとおり賞品を申し込む。  
※スタンプラリーは、スマートフォンでのみ参加できます。  
※参加するためには、「SpotTour」アプリのダウンロードとアクセス許可が必要です。
- 賞品申し込み方法  
コンプリート賞 鉄道各社提供のノベルティもオリジナルノベルティのセット100人限定、多数抽選。当選者のみ通知します。  
対象 ▶すべてのスタンプを集めた人。  
申し込み ▶スタンプをすべて集めると、申し込み先へのリンクが表示されます。抽選の結果に応じ応募してください。  
参加賞 ▶先着1000人限定。  
対象 ▶5つ以上のスタンプを集めた人。  
申し込み ▶期間中、Interestした(らば)とEXPOCITY1期1行き、アプリの画面を見てください。

### ○コンプリート達成者(市内・市外)



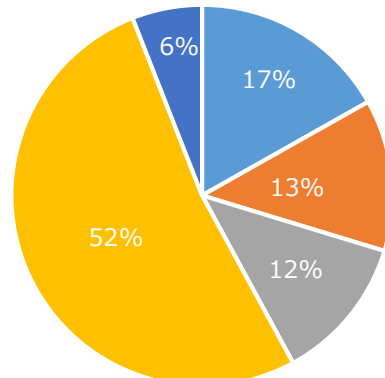
■ 市内 ■ 市外

### ○コンプリート達成者(年齢構成)



■ 10才代未満 ■ 10才代 ■ 20才代  
■ 30才代 ■ 40才代 ■ 50才代  
■ 60才代 ■ 70才代 ■ 80才以上

### ○コンプリート達成者(開催情報入手先)



■ 友人、知人から ■ SNS (吹田市公式含む)  
■ 駅ポスター ■ 市報「すいた」  
■ 吹田市ホームページ

コンプリート達成者数:202名



---

# 主な広報活動(水再生室)

---

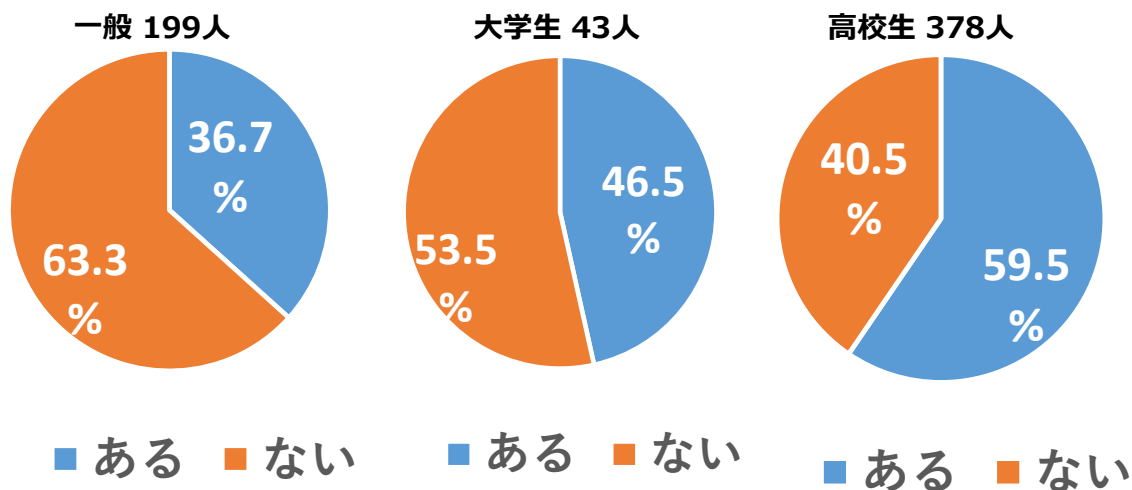
## ● 下水処理場の認知度向上

下水処理場の認知度を高めるために、施設見学の実施、動画での情報発信、出前講座等の実施を行っている。

## ● 現状把握

下水処理場の認知度を把握するために、令和4年度にアンケートを実施。

Q あなたは下水処理場を見学したことや見たことはありますか？

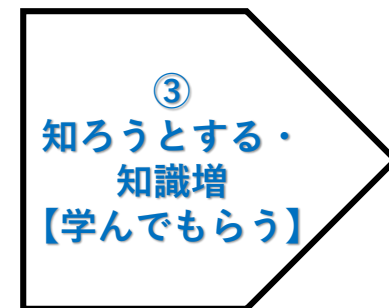


水道施設と混同されている可能性がある。  
感覚的にはもっと低い認識があるので、丁寧な調査が必要

## ● 取組の考え方

- ・下水処理場の存在を知ってもらう
- ・情報発信できる機会があればトライする
- ・何かできないかと日々模索している

幅広い世代をターゲットとするが、若年層、特に小中学校が対象



## ●施設見学概要

	対象者	内容	募集に関する情報発進方法
一般見学 (平日開催)	誰でも可 (5人以上)	【①】下水処理場の役割、処理の仕組みについて、座学。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP</li> <li>・チラシ【図書館】、【イオン】</li> <li>・デジタルサイネージ【本庁】</li> </ul>
小学校見学 (平日開催)	小学4年生	【②】処理場内を見学 ※合計1時間～1時間半程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP</li> <li>・教育委員会へお知らせ</li> </ul>

## ●見学募集に関する情報発信

・教育委員会へのPR

教育委員会の先生方が利用するコミュニケーションツール  
(パソコンの掲示板)でお知らせ  
小学生・中学校の各学校の先生が集まる場で、施設  
見学募集のお知らせ。



・プロジェクター、デジタルサイネージ、チラシでの募集



本庁プロジェクター



本庁デジタルサイネージ



図書館でのチラシ

・シティプロとの連携した情報発信

シティプロモーション推進室と連携をとり、J:COMのLIVEニュースに出演。下水処理場の役割、仕組み等を紹介し、施設見学会募集のPRを行った。



## ●見学者数の推移

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5 <sup>※</sup>	平均
一般	18	61	20	77	61	コロナ 中止		31	29	42
学校数	0	0	0	2	0			1	2	0

※6月時点



見学に来る小学校数を増やす

## ●課題

- ・情報が届いているのか、効果が見えにくい（現実的には見学者数が増えていない・・・）
- ・どこまでの認知度をめざすのか数値目標がまだたてられていない（ベースがつかめていない）
- ・取組が場当たりの感になっている（試行錯誤している。お金をかけない取組に限界）
- ・全般的に情報のアウトプットのノウハウがない

---

---

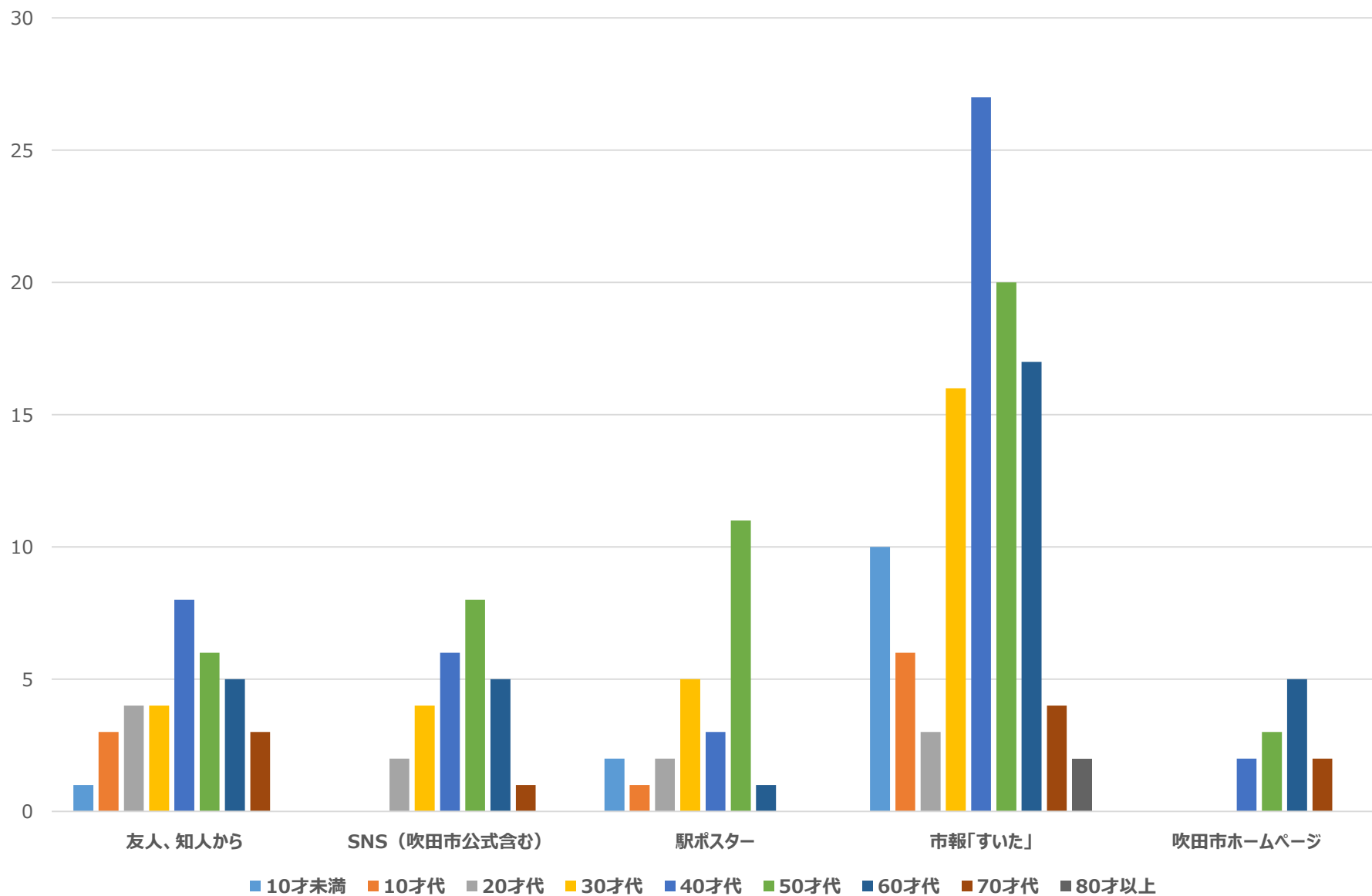
# まとめ

---

---

- 具体例としてスタンプラリーを考えると、様々な媒体を活用し、情報発信を行っているが、市報からの情報収集が大半であった。吹田市HPから情報入手していない状況のため、吹田市HPからの情報発信を市民の方へ広げるには、こういった取り組みを増やせばいいのか。また、今後の情報発信は、吹田市HPでも行うとともに、市報、SNSに注力していくのが、有効なのか。
- 下水道施設は、大半が地中に埋まっており、市民の方が普段、目にする機会が多いマンホールを題材とし、広報発信してきた。今後、広報活動を行う上で、マンホール以外に広報素材として考えるには、こういった手法がいいのか。(例:キャラクターなど擬人化)
- 下水処理場の認知度が向上するよう、施設見学者数を増加させる取組（教育委員会への情報発信、チラシ等）をしているが、現在の取組に関する良い点、改善点について意見をいただきたい。  
また、別途、効果的に施設見学者を増やす方法や認知度を高める手法について意見をいただきたい。

## ●開催情報入手状況



**ご清聴ありがとうございました。**